読者の声

西別湿原ヤチカンバ群落地の乾燥化に想う

松尾 武芳
（根室市）

『私は先日、友人を案内して別海町の西別湿原ヤチカンバ群落地を見に行った。ヤチカンバは北極圏に近いツンドラに生える高さ2mほどの株立ちする樹木で、最終氷期に日本列島にまで分布していたものが、今では日本では西別湿原と十勝・更別村の更別湿原にだけ生き残っているとして、西別湿原ヤチカンバ群落地は2011年3月15日に北海道の天然記念物に指定されている。

湿原のふちに立って、我々は驚いた。湿原の真ん中に排水溝が掘られ、その片側の湿原にはトドマツの苗木が植林されている。湿原は乾いていて、一部にはササが侵入し始めている。道路で分断された反対側の湿原では周囲から樹木が侵入してきている。湿原の隣の牧草地との間の水路には勢いよく水が流れているが、道路に隔てられて湿原には注いでいない。

湿原の様子は30年前に見た時と大きくは変

わっていない。しかし、排水溝を埋めもどして湿原からの排水を止めたり、道路の下に導管を引いて水路の水を湿原に入れたりしなければ、西別湿原とヤチカンバ群落はゆっくりと、しかし、確実に消滅に向かっていくだろう。

案内板の説明には、「現状を変更したり、天然記念物の保存に影響を及ぼす行為は罰せられます」とある。果たして誰が罰せられることになるのだろうか？』

これは、北海道新聞の読者の「声」欄に投稿した原稿です。道新では投稿よりは記事にした方がいいというので、「声」欄では取り上げられませんでした。暫くして、このことが道新夕刊トップの記事になりました。要約すると「氷期の遺存種とされ、道指定文化財（天然記念物）の「西別湿原ヤチカンバ群落地」に危機が忍び寄っている。指定前に掘られた側溝（排水路）が残され、乾燥化が緩やかに進行、ササなど他の植物が侵入しつつある」というものです。指定地の外ということでトドマツの植林については触れられていません。また、排水路は周りの牧草地のために必要で、持ち主は埋め戻しを考えていない。管理する別海町教育委員会は「今すぐなくなるという危機的状況ではない、水位測定や植生分布の調査をしており、より長い期間のデータを集めて対策を考えたい」としています。

これで一件落着でしょうか？　とんでもない！現在の乾燥化を引き起こしている原因に全く触れていない上、現在の法令を前提にして現状を容認し、関係者の意見を紹介しただけで、ではどうしたら乾燥化を食い止められるのかという提案がない。現状を伝えるのが新聞の使命なのかもしれませんが、これで事足れりとするならば、害あって利なしです。これが新聞の限界なんでしょうか。

別海町教育委員会も「しめしめ、これで一般の人の関心が薄れれば、また今まで通りで何もしなくて退職する時に次にバトンタッチすればいいや」とほくそ笑んでいる事でしょう。

では、どうするか？　まず乾燥化の原因を考えてみる事でしょう。30 年前には指定地を分断する町道と排水溝は出来ていました。今でも上流側からこの道路に向かって大量の水が勢い良く流れ込んでいます。しかし道路に隔てられて湿原には注いでいません。恐らくこの道路と排水溝が出来た時から湿原の乾燥化が進んできたのは間違いないでしょう。この原因を取り除いてやらない限り乾燥化は止められないでしょう。道路の下に水の導管を埋めて上流の水を湿原に注ぐことは難しいことのようには思えません。排水溝の埋め戻しも牧草地に影響があるのであれば補償をするとか、牧草地を指定地に組み入れるとか出来るはずです。まだヤチカンバが残っているトドマツが植林された部分も、指定地に組み入れてバッファーゾーンとするべきでしょう。もうひとつ気になることはヤチカンバ群落地が牧草地に囲まれてしまったことです。元々森林に囲まれていたヤチカンバ群落地ですから、今の状態で牧草地から悪い影響が入り込んで来ないか、も心配のひとつです。

ではそれを何時やるのか、それは今でしょう。このまま町や道に模様見をさせていたら、また今までの 30 年と同じで、どんどん乾燥化が進んでヤチカンバ群落地は消滅していくでしょう。最終氷期からの長い年月を生きてきたヤチカンバ群落地を私たちの時代に終わらせるわけには行きません。